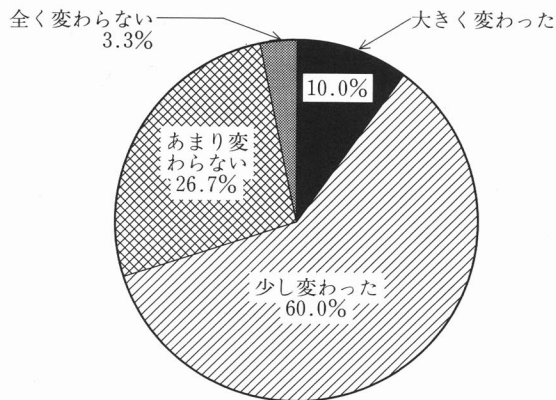


エ 『創作』（音楽づくり）のイメージは変わったか？



この質問では、「大きく変わった」「少し変わった」を含めると、全体の70%の生徒が今までの創作のイメージが変わったと答えている。

その理由としては「楽しかったから」が最も多く、他に「基本を学べば結構簡単に一つの音楽を作れることを知ったので」「メロディーを考えたりという難しいことだというイメージが、そうでないと思ったから」「今までは一人で創作していたからおもしろくなかったけど、みんなで考えることでいい音楽ができたと思うから」などが挙げられた。

反対に、全体の30%が「あまり変わらない」「全く変わらない」と答えており、理由として、「何となく」が最も多く見られ、他に「創作が難しいのには変わりがないから」などが挙げられた。

全体としては、事前調査での「創作」（音楽づくり）に対する消極的な見方を変えることができたように感じる。

#### IV 研究の成果と今後の課題

##### 1 研究の成果

即興的表現による「アジアの民族音楽」へのアプローチとして、フィリピンの民族楽器「トガトン」を使った「創作」（音楽づくり）をしていく指導の在り方を探ってきた。

その授業実践の成果として、前項の「今回の授業で分かったことは？」の生徒の記述からその主なものを読み取ることができる。

一つは「民族音楽」の諸原理に基づいた体験的活

動の有効性であり、もう一つはその原理に基づいた「即興的表現」の楽しさを、グループアンサンブルの活動をとおして共有できた点である。

さらに、事後のアンケート調査で「楽しかった」と答えた生徒が多く見られたことは、「アジアの民族音楽」を理解する方法として、そして生徒一人一人の個性や発想を表現する手法として「創作」（音楽づくり）が有効であったように思われる。

##### 2 今後の課題

本研究の成果を踏まえ、今後は以下の視点から研究を進めたいと考える。

###### (1) 「アジアの民族音楽」の視点から

今回は、東南アジアの特にフィリピンの民族楽器「トガトン」を使って実践したが、アジアの他の地域の音楽文化の特徴を研究し、表現学習として教材化を図ること。

###### (2) 「創作」（音楽づくり）の視点から

「アジアの民族音楽」の音階の特徴を捉え、旋律として「創作」（音楽づくり）に生かす指導の在り方の研究。

最後に、本研究にご協力いただいた、福島県立福島東高等学校の校長先生、音楽担当教諭の松本光治先生に厚くお礼申し上げます。

##### 《引用文献》

- 1) 文部省：高等学校学習指導要領解説 音楽編（東洋館出版社 1990）p95
- 2) 文部省：高等学校芸術科音楽指導資料「指導計画の作成と学習指導の工夫」（教育芸術社 1992）p59
- 3) 坪能由紀子『世界の音楽に親しもう』12 教育音楽中高版連載（音楽之友社 21991 12月号）p90
- 4) 坪能由紀子『音楽づくりのアイディア』（音楽之友社 1995）p53

##### 《参考文献》

- トレヴァー・ウィシャート著 坪能由紀子・若尾裕共訳『音あそびするものよっといで!』（音楽之友社 1987）
- 藤井知昭『民族音楽概論』（東京書籍 1992）